

# BIBLE + MESSAGE

空の空。伝道者は言う。空の空。すべては空。  
日の下で、どんなに労苦しても、それが人に何の益になろう。

(伝道者の書1章2～3節)

「空」(くう)=むなしい、という言葉が聖書にあることをご存知だったでしょうか？どちらかと言えば、仏教の言葉のように思われるかもしれませんが。上記の言葉は、紀元前1000年頃、古代イスラエル王国がもっとも栄えていた時代の王であるソロモンが残した言葉です。

ソロモンは世界中の誰よりも知恵と知識とに満ち、多くの富や財産を持ち、ありとあらゆる権力を持つような人物でした。彼はさまざまな政治や事業を行い、大きな邸宅や立派な庭園を造りました。彼のもとには多くの奴隷がいました。また、たくさんの妾を持っていました。「私は、私の目の欲するものは何でも拒まず、心のおもむくままに、あらゆる楽しみをした」とソロモンは告白しています。彼はおよそ、人間が思いつく限りの快樂と贅沢とを味わい尽くした人物だったのです。

しかし、そんなソロモンが人生の晩年において残した言葉は、「良い人生だった…」ではなく、「すべては空」、つまり、「すべてはむなしかった」だったのです。この書の最後にある12章において、ソロモンは人の人生の結論を読者に語っています。ぜひ読んでみてください。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

## 聖書を読んだ日本人

岡崎市の北部、豊田市との境に「細川」という地名があります。ここは鎌倉時代から江戸時代にかけて栄えた武家「細川氏」の発祥の地だそうです。この細川氏のなかに、細川忠興(ただおき)という武将がいますが、彼のもとへ嫁いできたのが、明智光秀の三女である玉でした。玉は忠興と幸せな新婚生活を送りますが、天正10年(1582年)、父光秀が全国を平定しようとしていた織田信長を倒すという歴史的な大事件「本能寺の変」を起すこと事態は急変します。光秀は忠興に協力を呼び掛けますが、忠興はこれを拒否。その後、光秀は戦死し、明智家は

滅亡してしまいます。忠興はさらに、反逆者の娘である玉を幽閉するのです。その期間は実に2年間に及びました。しかし、信長の後に覇権を握った羽柴秀吉の取り成しにより、厳しい監視がありながらも、玉は幽閉を解かれることになるのです。この頃、忠興はキリシタン大名として有名な高山右近から聞いた話を玉に話すことがありました。すると、玉は次第にキリシタンの教えに興味を持ち始めるようになります。しかし、玉はそのことを夫に隠していました。そして天正15年(1587年)、忠興が九州へ出陣して家を留守にした際、玉は自らの身

分を隠して教会へと向かうのです。玉は教会にいた修道士にさまざまな質問をするのですが、その修道士は彼女の聡明さに驚いたそうです。信仰を持った玉は後に洗礼を受け、「ガラシヤ」という名前を授かります。これは英語の Grace にあたり「恩寵」「恵み」という意味です。後に玉は壮絶な最期を遂げるのですが、その時に残したのが「ちりぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ人も人なれ」という辞世の句でした。戦国を世を生き抜いた一人の女性。明治期のクリスチャンたちは、彼女の信仰を讃えて「細川ガラシヤ」と呼んだそうです。



細川玉  
(ほそかわ たま)  
1563年～1600年